



若山牧水のこと

伊藤卓雄（自然保護助成基金理事）

「幾山河越えさり行かば寂しさのはてなむ国ぞ今日も旅ゆく」と詠んだのは、漂泊の歌人、若山牧水。彼の紀行文集「新編 みなかみ紀行」（岩波文庫）が、平成14年の春に刊行されました。

そのことを沼津市在住の友人から聞き及び、早速読んでみましたところ、一読して、牧水の自然を見る眼の確かさに感じ入り、以来、関心を持って彼の歌集や随筆集を少しずつ読み進めており、その自然に対する愛着の根源に触れる思いを強くしています。

彼は、日向の国、宮崎県は坪谷村という山峡の地に生まれ育ち、「ものごころのつく頃から痛くこの溪と山の雨とを愛した。」と、自ら記しており、牧水という号も、母の名（まき）と山の溪や雨に因んだものです。幼少年時代の遊びといえばほとんど自然が相手で、「夏は溪に集るが、四季を通じて我等は山や林に親しんだ。」とも記しています（「若山牧水随筆集」）。そして、「水」へのこだわりが、水の源、つまり「みなかみ」への憧れとなり、幾山河への旅に誘っていることがうかがわれるのです。

実は、友人は、牧水終焉の地、沼津市内にある牧水の菩提寺（乗運寺）の住職であり、それが縁で、沼津市若山牧水記念館の活動を支える沼津牧水会の理事長を務めており、「新編みなかみ紀行」に「沼津千本松原」と題する文章が掲載されたことを喜んで知らせてきたのです。

沼津市千本浜にある千本松原は、牧水がこよなく愛し、永住の地として居を定めたところ です。

「沼津千本松原」の項で、彼は、松原の全景のみならず、これを構成する植生の状況や、去来する様々の鳥達の名前まで挙げて、この地の意義を称えています。

さらに、「沼津から千本浜へ出ようとする浜道の右手に千本山乗運寺という寺」があり、その住職（伊藤注：牧水と親交のあった友人の祖父のこと。）の代よりは廿六世以前、増誉（ぞうよ）上人という方がこの地に来て、以前鬱蒼としていたと伝えられる松原が戦のために伐り払われ荒野と化している様を嘆き、自ら植樹を始めたこと、そして、読経をしながら、まず一千本を植え付け、時の政府に建言して苗木の愛護に努める等もし、数代の苦心によって現代の壮大な松原が出来上がったという故事を紹介しています。

この松原について、静岡県による伐採計画が持ち上がったとき、牧水は、新聞に反対意見を寄稿し、結局、計画は中止となったのです。大正15年、今から約80年前のことです。

あまり、知られていないエピソードですが、まさに、エコロジー運動の先駆けだったといえるのではないのでしょうか。そして、深い自然観と観察に裏打ちされ、かつ、訴える力があって初めて世論を動かすことが出来ることを示した一例といえましょう。

末筆ながら、間もなく創立10周年を迎える自然保護助成基金の着実な発展を喜びますとともに、その蓄積が各方面で活用され、更なる寄与と飛躍が示されるよう心から願っております。

平成 14 年度 助 成 事 業 報 告

平成 14 年度当基金の助成総額	3,300 万円		
I. (財) 日本自然保護協会との共同事業による公募助成	24 件	2,085 万円	
II. (財) 世界自然保護基金日本委員会の事業助成	4 件	320 万円	
III. (財) 日本自然保護協会の事業助成	2 件	550 万円	
IV. F o E ジャパン	2 件	120 万円	
V. その他の助成	2 件	225 万円	

平成 14 年より 15 年にかけて助成(内容は下記)

助 成 内 容

- I P. N. ファンド第 13 期(平成 14 年度)助成先一覧(別紙)
- II (財)世界自然保護基金ジャパンへの独自事業助成
- ・白海海域におけるサンゴ礁モニタリング調査 助成額: 100 万円
 - ・南西諸島の生物多様性に関する調査 助成額: 100 万円
 - ・北方四島における自然保護活動 助成額: 50 万円
 - ・ベトナムでのジュゴンと藻場保護(WWF インドシナ) 助成額: 70 万円
- III (財)日本自然保護協会への独自事業助成
- ・沖縄地域の自然保護問題への対応 助成額: 200 万円
 - ・「第 2 回ありあけ大調査-研究者と漁民による冬季赤潮発生メカニズムの解明-」 助成額: 350 万円
- IV F o E ジャパンへの独自事業助成
- ・ロシア沿海地方の先住民民族 NGO に対する支援協力 助成額: 50 万円
 - ・シホテーアリニ山脈の自然とウデへ人の文化をテーマとして、日本の小学校の教材として使用される副読本の製作 助成額: 70 万円
- V その他
- ・国際山岳年・国際エコツーリズム年記念 山岳エコツーリズムフェスティバル in 北海道 2002 助成額: 100 万円
 - ・その他未定 助成額: 125 万円

事務局スタッフ交替

事務職員の関 昌子が今年 7 月末をもって退職し、福田 泉が引継ぎ致しました。

P.N.ファンド第13期(平成14年度)助成金一覧

国内調査研究助成

単位:千円

No.	研究テーマ	助成先	代表者	助成額
1	中部空港島周辺における底質・底生生物を中心とした水域環境変化に関する研究	空港島周辺海域環境研究会	西條 八東(名古屋大学 名誉教授)	1,000
2	父島のオガサワラオオコウモリの保全生態学的研究	オガサワラオオコウモリ研究グループ	福葉 慎(小笠原自然文化研究所)	1,000
3	北方四島(国後島)の生態系 一陸上動植物相調査一	特定非営利活動法人 北の海の動物センター	大森司 紀之(北海道大学大学院 獣医学研究科 教授)	2,000
4	えびの高原におけるシカの行動様式の変化について 一餌付けがシカに与える影響一	えびのシカリサーネグループ	遠藤 晃(科学技術振興事業団)	880
5	在来マルハナバチ類保護のためのセイヨウオオマルハナバチの野生化状況の評価と駆除方法の開発	セイヨウオオマルハナバチ野生化問題研究グループ	横山 潤(東北大学大学院 生命科学研究所 助手)	850
6	島原半島における淡水紅藻オキチモズクの保全と遺伝子解析	オキチモズク保全研究グループ	飯間 雅文(長崎大学 環境科学部 助教授)	950
7	世界最南限のイワナ個体群“キリクチ”の保全生態学的研究	淡水生物研究会	渡辺 勝敏(奈良女子大学 理学部 助教授)	700
8	イワメ(無斑型アマゴ)の生息環境と保護	西日本淡水魚類研究会	近藤 卓哉(九州大学 農学部 生物資源研究科)	800
9	淡路島の農村地域のため池群における生物多様性保全に関する研究	淡路棚田研究会生物多様性研究グループ	一ノ瀬 友博(姫路工業大学 自然・環境科学研究所 助教授)	700
			小計	9件 8,880

国内活動助成

1	東京湾の干潟を中心とする環境の保全	千葉の干潟を守る会	大浜 清	1,000
2	干潟を守る日2003in諫早	干潟を守る日2003in諫早実行委員会	山下 八千代(諫早干潟緊急救済本部)	500
3	吉野川河口干潟周辺における「人と自然とのふれあい」をベースにした環境マップの作成	とくしま自然観察の会	井口 利枝子	750
4	日本における [自然の権利] 運動の記録 (~2002. 12)	[自然の権利] セミナー	佐久間 淳子	1,000
5	エゾシカ猟用鉛弾を原因とするワシ類の鉛中毒に対する防止活動	市民団体 ワシ類鉛中毒ネットワーク	黒澤 信道(釧路地区農業共済組合弟子屈支所家畜診療所)	570
6	希少植物「カワラノギク」の保護・育成	はむら自然友の会	岡崎 学(中野区文化・スポーツ振興公社)	140
7	霧ヶ峰の草原生態系と景観の保全のためのシンポジウム開催と報告書の作成・活用	霧ヶ峰ネットワーク	栗原 雅博(千葉大学大学院自然科学研究科 博士後期学生)	970
8	チゴハヤブサの調査保護と子供たちへの環境教育活動	札幌チゴハヤブサの会	東郷 典彰(北海道庁 主査)	440
9	大規模開発の迫った京阪奈丘陵の里山での市民による生き物調査の実施	生駒の自然を愛する会	琢磨 千恵子	200
10	市民版日高横断道路「時のアセス」の作成	「止めよう日高横断道路」全国連絡会常任委員会調査部	小島 望	650
			小計	10件 6,220

海外調査研究助成

No.	研究テーマ	所属機関	代表者・[]内推薦者	助成額
1	インドネシア・西ジャワ海及びナツナ海における絶滅に瀕したタイマイ繁殖個体群の現状の把握とその資源回復対策の確立	インドネシアウミガメ研究センター【インドネシア】	Mr. A. Yusuf [尾崎直樹:日本ウミガメ協議会 会長]	1,190
2	中国海南島における野生哺乳類の保護区設定と保護システムの確立	中国海難師範学院 海南野生動物保護管理研究センター【中国】	李 玉春 [小金澤正昭:宇都宮大学農学部附属演習林 教授]	910
3	ネパールシワリク産地の生態学的研究:動的景相域における生物種維持管理	リソース・ヒマラヤ【ネパール】	Dr. D. R. Bhuju [尾崎直樹:千葉県立中央博物館 研究員]	1,200
4	低地熱帯林の生態系指標としてのカワリクマタカ(Spizaetus cirrhatus)に関する調査 ースンパワ島、コモド島、フロレス島に生息する亜種を対象として一	YPAL(原生自然保護協会)【インドネシア】	Mr. W. Raharjaningtrah [(財)日本野鳥の会:乾由布子]	1,300
5	石門台(シメンタイ)国立自然保護区におけるチョウ類のモニタリング	華南農業大学 昆虫生態学教室【中国】	王 敏 [矢田脩:九州大学大学院 教授]	1,150
			小計	5件 5,750

助成金総額	合計	24件	20,850
-------	----	-----	--------

平成13年度決算ならびに平成14年度予算

当基金では平成14年5月13日に第19回理事・評議員会を開催し、平成13年度の事業報告、決算報告及び平成14年度の事業計画、収支予算案が承認されました。決算と予算は下表の通りです。

平成13年度決算ならびに平成14年度予算

(単位：千円)

項目	平成13年度		平成14年度
	予算	決算	予算
(収入の部)			
基本財産運用収入	44,000	44,996	49,000
運用財産収入等	550	2,611	100
前期繰越金	22,462	22,462	20,403
収入合計	67,012	70,069	69,503
(支出の部)			
事業費	32,000	31,509	34,000
活動助成	(8,000)	(12,890)	(10,000)
調査研究助成	(15,000)	(8,670)	(15,000)
海外調査研究助成	(8,000)	(8,870)	(8,000)
事業管理費	(1,000)	(1,079)	(1,000)
管理費等	15,890	16,129	17,065
次期繰越金	19,122	22,431	18,438
支出合計	67,012	70,069	69,503

「第8回プロ・ナトゥーラ・ファンド助成成果発表会」

- 日時：2002年12月7日(土) 10:15～16:45
- 場所：こどもの城(8F 801～804 研修室) TEL:03-3797-5677
- 主催：(財)自然保護助成基金・(財)日本自然保護協会
- 参加費：無料(どなたでもお気軽にご参加ください)
- お申し込み：直接会場へお越し下さい。途中参加も可能です。
- 詳細はホームページ (<http://www1.big.biglobe.ne.jp/~pronat/>) をご参照下さい。

編集後記

新しい世紀に入ってから早くも3年が経とうとしています。毎年末にお送りするニュースにいつも同じことを書かなければならないのは、つらいことなのですが、しかたありません。世の中少しの進歩もなく、環境、景気共に相変わらずの状態です。P. N. の助成が僅かながらの良い方向への導きとなりますようお願いして止みません。只々本当に来年こそはよい年になりますようにを繰り返すのみです。

記 岡本 和子

Pro Natura ニュース 第12号

発行者：財団法人 自然保護助成基金

発行年月日：平成14年11月25日

〒150-0046

東京都渋谷区松濤1-25-8

松濤テックス 2階

TEL:03-5454-1789 FAX:03-5454-2838

E-mail:pro-natura@muj.biglobe.ne.jp

<http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~pronat/>